



2016.12.20

山梨県子ども読書支援センター

本誌は、県民の皆様に山梨県子ども読書支援センターのことをより深く知っていただくため、

当センターの事業や活動内容について情報発信するものです。

## >>第3回子どもの読書活動推進スキルアップ講座を開催しました。

10月27日(木)に「思わず手に取って読みたくなる!本のディスプレイ」と題して、子どもの本コーディネーターのさわださちこ氏を講師に迎え、講座を実施しました。図書館司書や学校司書等、子どもの読書に関心を持つ92名の方の参加がありました。

仕事をテーマにした本や秋に読みたい本、10月生まれの人におすすめの本や猫の本など、それぞれのテーマに沿って本を数冊ずつ紹介しながら、本の内容や装丁にあったディスプレイ方法を解説し、実際に様々な材料で作成した例を紹介していただきました。ディスプレイの材料は、お菓子の箱や包装紙、古着やはぎれ、ラップの芯などの身近な物や、ストロー、マスキングテープ、フェルトなど100円ショップで手軽に購入できるものを使用することでした。クリアファイルを使った立体的なPOPや、色味を考えた台紙を付けたり、枕を置いて本を立体的に展示するなど、少しの工夫で本の表紙が引き立ち、より魅力的に見えるアイデアを教えてくださいました。

また、水玉や縞模様の柄の折り紙を菱形に切り、半分の三角形に折ってから風糸に等間隔に貼るカラフルな「フラッグガーランド」と、長方形の紙を蛇腹折に6等分して、ウサギやクマの形に切り抜いた「手つなぎウサギ」の2種類のディスプレイ小物を作成しました。



▲ディスプレイ小物を作成する参加者

参加者からは、「本の展示の工夫、身近なものを活かした飾りの見本を実際に見せていただいて、大変参考になった。」「実際にディスプレイ小物も作成し、とても楽しく充実した時間だった。小物はすぐに活用したい。」等の感想が寄せられました。

## >>山梨県立図書館では、毎月子どもたちにおすすめの本を紹介しています。

新聞などで紹介した本を、山梨県立図書館のホームページにも掲載しています。

\*「山梨日日新聞」の「山日子どもウィークリー」

毎月第1火曜日に「いちおし本だな」というコーナーがあります。そこでは、小学校低学年、中学年、高学年、中学生向けに1冊ずつ、その時期に読んでほしい本を紹介しています。

■URL <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/children/list.html>

\*山梨県の子育て支援課「やまなし子育てネット」の「読み聞かせについて」でパパ、ママ、じいじ・ばあばに読んでもらいたい本として、それぞれ2冊ずつおすすめ絵本を紹介しています。またこちらの本は、「やまなし子育てネット」のメールマガジンでも配信されています。

■URL [http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo\\_shien/shien\\_info.html](http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo_shien/shien_info.html)

ぜひご覧ください。

## ＞＞子どもの読書指導者養成講座（第2回・第3回）を開催しました。

平成28年度「子どもの読書指導者養成講座」の第2回を9月15日（木）、第3回を11月17（木）に開催しました。

第2回は「読書が培う＜豊かな人間性＞と＜情報リテラシー＞」と題して、青山学院女子短期大学教授の堀川照代氏にご講義いただきました。子ども時代の読書は「聞く力」（耳からの読書）に始まり、広い意味での読書により「読む力」を身につけることで、情報を使う力（問題を解決する能力）と豊かな人間性を育てることができるとのことでした。「読書で人は感情の体験ができる。特に、不快感情の体験に限っては現実ではなく物語で味わう方が良い」「ヤングアダルト文学ができ、ハッピーエンドではなくても人生を肯定してくれる」との言葉が印象的でした。豊富な事例紹介や、DVDでの取組紹介、また、学校図書館の活用や公共図書館の支援の例など、具体的にお話してくださいました。

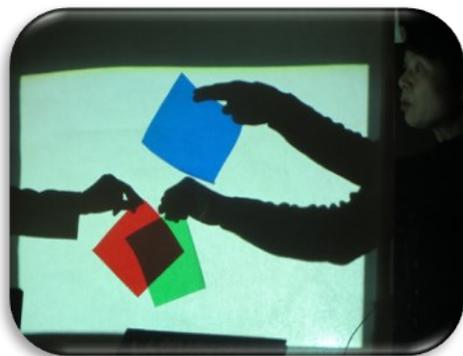
後半は、受講者が事前に取り組んだ課題を基にグループワークを行いました。用紙の真ん中に課題で読んだ本のタイトルを、その周りに本の内容を表すキーワードを書いてマッピングを行いました。その後、そのキーワードを使ってグループの人に5分で本を紹介し、最後にどの本が一番読みたくなったかを決めたのですが、これは同時にビブリオバトルの手法の紹介も兼ねていました。

受講者からは「探求的な学習へのサポート、司書の役割がよく理解できてよかった。」「マッピング作業はととても勉強になり、グループでの本の紹介も有意義だった。」等の感想が寄せられました。

第3回は「読書の地平を広げる理科読～光と影」と題して、NPO法人ガリレオ工房理事の土井美香子氏にご講義いただきました。子どもは生活経験が少なく、照らし合わせる経験が見つからない、また、おもしろさがわからずに手を出さないことがあるが、それを手助けするために理科読があるとのことでした。また、実体験は大事だが、それはただの経験値であり、言葉で理解し知識値とするためには、本が必要とのお話でした。今回は「光と影」がテーマでしたが、受講者はLEDの光を用いて、ストローやスポンジ、日時計クラフト、分光シートなどを使いながら、光の進み方や影のでき方、また光の色の見え方などを体験しました。また、土井先生による障子紙を用いた影絵などもあり、光と影の仕組みを楽しく学ぶことができました。体験の要所要所で絵本の読み聞かせや本の紹介があり、自分が体験することで本の理解がより深まること、また、読書の世界が広がることなどを実感しました。読み聞かせは小学校低学年まででは？と言われることが多いそうですが、土井先生はスーパーサイエンスハイスクールの理科読でも読み聞かせをされている



▲第2回講座の様子



▲講師による影絵の実演

そうです。

受講者からは、「子どもたちに理科読の芽を育てるヒントをいただいた。」「実体験が知識となって入ってくる瞬間を味わった。」等の感想が寄せられ、理科読の効果を感じることができたようです。